

平成28年第1回北海道議会定例会 [予算特別委員会 知事総括質疑] 開催状況

開催年月日 平成28年3月22日(火)  
 質問者 日本共産党 菊地 葉子 委員  
 担当部課 建設部住宅局住宅課

質問要旨	答弁要旨
<p>一 包括外部監査について</p> <p>(一) 債務超過について</p> <p>住宅供給公社の債務超過が92億円を超える見込みであり、大変な金額となっております。さらに増える可能性もあります。公社がおよそ100億円規模の債務超過を抱えることになったことについての知事の認識をお伺いいたします。</p>	<p>○ 知事 高橋 はるみ</p> <p>包括外部監査結果についてですが、このたびの包括外部監査により、住宅供給公社の平成26年度決算において、資産計上していた割賦債権への約14億円の過大計上や、南幌町みどり野団地の15年度の時価評価を見直す機会を失い、約18億円の評価損が明らかになつたところであり、公社では、27年度決算において適切に処理する考えであるところであります。</p> <p>また、公社は、16年の特定調停成立後、新たな事業に着手せず、債権者に対し着実に返済を続けており、道といたしましては、今後とも、返済が着実に実行されるよう、公社運営監理委員会を通して、全庁的な連携を図りながら指導・監督を強化してまいる考えであります。</p>
<p>【再質問】</p> <p>知事のこうした事態がおこったことに対する認識を伺つたのです。このような事態になったことの責任を、どう考えていらっしゃるのか、あらためてお伺いします。</p>	<p>○ 知事 高橋 はるみ</p> <p>包括外部監査についての重ねてのご質問でございますが、公社は、特定調停成立後、新たな事業には着手せず、決定されたスキームに従い債権者に対し着実に返済を続けてきたところですが、公社が、これまで事業資産を過大に計上し、不適切な決算を報告していたことが明らかになつたことは、遺憾であります。</p> <p>道ではこれまで、副知事をトップとする公社運営監理委員会を設置をし、特定調停後の公社が健全な経営維持をし、債務の返済が着実に実行されるよう、全庁的な連携を図りながら指導・監督してきたところですが、その責任を果たすことができず、会計の不適切な処理を見過ごしていたことにつきましては、重く受け止めており、このたびの包括外部監査での指摘や意見も踏まえ、公社に対しての指導・監督を強化するほか、これまでの対応について、適切に対処してまいる考えであります。</p>
<p>(二) 真相解明について</p> <p>重く受け止めているという答弁をいただきました。そこで真相解明についてお伺いします。道は、書類が存在しないことを理由に真相解明が進まないとしています、しかし公社にはこれまでOBを含め多くの道職員が関与してきました。知事は、今回の事態を重く受け止めるというのであれば、書類が存在しなくても当時の職員などに聞き取りを行うなど、真相解明に向けて独自の調査を実施すべきと考えますが、いかがですか。</p>	<p>○ 知事 高橋 はるみ</p> <p>公社に対する調査についてですが、このたびの包括外部監査は、公社から提出された書類をもとに、昨年8月から現地調査を含め、資産の評価や管理、割賦債権の一覧、その他業務全般について調査をしていただき、割賦債権の過大計上が明らかになつたところであります。</p> <p>このため、監査人からの依頼により、道が当時の関係者へのヒアリングを行つたところであります。が、当時の書類が存在せず、原因の特定には至らなかつたところであります。</p> <p>監査結果を受けて、公社においては、会計や経営全般にわたる指導や助言を得るために、新年度から、公認会計士を顧問として置くことを検討しているところであり、道といたしましては、公社運営監理委員会に財務会計に関する専門家も参加する部会を設</p>

質問要旨	答弁要旨
<p>【再質問】</p> <p>道が行った調査について、原因の特定には至らなかつたと、結論だけを押しつけられても道民は理解できません。知事は、私の書類がなくても当時の幹部職員がいるのだから、独自調査をすべきだと質問にはきちんと答えています。知事はいittai、当時の関係者、何人にどのような調査をして、どんな回答だったのか、はつきりお答えください。</p>	<p>置するなどして、その機能強化を図る考えであります。</p> <p>○ 知事 高橋 はるみ</p> <p>調査についてありますが、ヒアリングは、特定調停時および平成15年度決算時において在職していました、公社及び道の関係職員を対象として実施をし、公社においては部長等6名、道においては公社担当の参事等2名の合計8名を対象に行ったところです。</p> <p>ヒアリングの結果、約14億円の割賦債権の過大計上に関する、事情を承知している関係者はいなかったところであります。</p>
<p>(三) 道の貸付金の返済について</p> <p>8名という数は、決して多くはないと思いますし、14億円の割賦債権の過大計上の事情について承知している関係者はいなかった。</p> <p>ここで終わっていいはずはありません。知事がいまとるべき責任は、何よりもまず道からの貸付金が確実に返済されるよう、早急に手立てを講じることです。280億円もの貸付金は道民の血税であり、1円たりとも無駄にすることは許されません。</p> <p>知事は責任を持って貸付金の新たな返済計画を早急に検討し、道民に示すべきと考えますが、計画策定期も含めて見解をお伺いします。</p> <p>計画策定期についての明確な答弁はありませんでした。道財政が依然厳しいといいながら、貸付金の返済計画にも影響が及ぶ重大問題です。道民の納得の得られる真相解明と確実な貸付金の返済に向けての手立てを決意をもって取り組まれるよう求めるものです。</p>	<p>○ 知事 高橋 はるみ</p> <p>公社の返済計画の見直しについてありますが、公社は、平成16年の特定調停成立後、残された債務の着実な返済に努め、26年度末までに、市町村への債務や道からの新たな長期貸付金を完済したほか、国や住宅金融支援機構への返済も含め、総額約290億円を返済してきているところであります。道の短期貸付金についても、可能な範囲で返済に努めているところであります。道といたしましては、公社が資産の売却や賃貸資産の活用などによる現金収入の確保や経費の削減に一層努めるよう指導・監督するとともに、返済計画については、消費税の増税による宅地分譲の動向を考慮するとともに、国への債務の返済期限なども踏まえ、公社と協議をし、見直しを検討してまいります。</p>

平成28年第1回北海道議会定例会 予算特別委員会（知事総括）開催状況

開催年月日 平成28年3月22日（火）  
 質問者 日本共産党 菊地 葉子 委員  
 担当部課 建設部土木局道路課

質問要旨	答弁要旨
<b>二 不要不急な公共事業について</b>	○知事 高橋 はるみ
<b>(一) 開発道路に関する認識について</b>	開発道路についてですが、開発道路は、昭和28年から道路法に規定されており、国土交通大臣が北海道開発のため、特に必要と認めて指定をし、本来の道路管理者である北海道や市町村に代わって国が整備を行ってきた道路であり、これまで、北海道開発において大きな役割を果たしてきたものと認識をいたしております。
<b>(二) 事業継続中の道道「美唄富良野線」及び「名寄遠別線」の事業費増額に関する認識について</b>	
<b>1 「美唄富良野線」の事業費変更に関する認識について</b> 昭和59年に開発道路指定を受けて、昭和62年から事業に着手した「美唄富良野線」の事業費変更について、知事はどういうに把握し、どう受け止めたのかお伺いいたします。	美唄富良野線についてですが、平成26年度に、地すべり対策やトンネル化によるルートの変更などにより、約63億円の事業費の増額が生じたところでありますが、有識者で構成する公共事業評価専門委員会において、事業の継続が了承されたところであります。南空知地域と上川南部地域の観光のアクセス向上や、物流の効率化など事業の必要性は変わっていないことから、早期の完成に向け、引き続き、事業を進めていく考えであります。
<b>2 「名寄遠別線」の事業費変更に関する認識について</b> 名寄遠別線は、美唄富良野線よりさらに10年前の昭和49年に指定され、同年度に事業に着手しています。同様に、事業費変更について、知事はどういうに把握し、どう受け止めたのかお伺いいたします。	名寄遠別線についてですが、平成26年度に、土石流の発生による工法の変更や、地すべり対策工の増工などにより、約68億円の事業費の増嵩が生じたところであります。公共事業評価専門委員会において、事業の継続が了承されたところであります。高次医療機関へのアクセスの向上や、災害による孤立化の解消など、事業の必要性は変わっていないことから、早期の完成に向け、引き続き、事業を進めていく考えであります。
<b>(三) 道道富良野上川線について</b>	
<b>1 道道富良野上川線の事業費について</b> 完成した開発道路、道道富良野上川線は、平成13年度までの事業費がおよそ110億円、道の負担はおよそ22億円と、平成14年11月の決算委員会で花岡委員の質問に建設部は答えています。これは間違いないですか。お伺いいたします。	富良野上川線についてですが、平成14年11月の決算委員会において、「この区間に於ける平成13年度までに完成した延長と事業費及び道の負担額について」のご質問に対し、建設部では、「約40km区間の平成13年度までの事業費は、約110億円と聞いており、このうち道の負担額は約22億円となっております」と答弁しているところであります。

質問	要旨	答弁	要旨
<b>2 道道富良野上川線の供用期間について</b> その後、道事業に委譲後、およそ6億5千万円を費やし、完成させました。この道路は今どうなっているのか、知事はご存じでしょうか。また、供用できた期間はどのくらいか、お答えください。			富良野上川線の供用についてであります、道が委譲を受けて特定道路事業交付金で施工した区間13.2kmについては、平成24年9月に供用開始したところであります。また、同年10月から冬期通行止めを実施し、平成25年5月にパトロールの際に法面の変状を確認したことから、そのうち5.4kmを通行止めとし、法面の変状原因について、長期にわたる観測が必要なため、現在調査を進めているところであります。
<b>2-(再) 1</b> 110億円を超える事業費をかけて、結局1ヶ月だけ開通して、その後通行止めのままという、こういうことについて、知事はどう認識されていますか。お伺いいたします。			富良野上川線についての重ねてのご質問でございますが、道が委譲を受けて施工した区間の13.2kmを含む当該道路は、大雪山山麓の観光地を結び、地域の観光振興に寄与する役割を担っておりますことなどから、現在開通している区間の適切な維持管理に努めるとともに、通行止めとなっている区間については、今後とも必要な調査などを行ってまいり考えであります。
<b>2-(再) 2</b> 道道富良野上川線ですね、知事は、必ずしも必要性は高くないと見直しを決断したことを覚えていらっしゃいますでしょうか。その決断による事業の見直しで、どれだけ節税効果があったのかご存じでしょうか。お伺いいたします。			富良野上川線についてのご質問でございますが、平成16年度に国が行った再評価において、当該路線について、事業規模見直し整備による可能性検討の結果、1.5車線整備として費用対効果が得られる区間について、整備を進めることとし、また、未着手となっている区間は整備を行わないとしたところであります。 この結果、残事業費が727億円軽減したと承知をいたしているところであります。このうち、道負担分としては約145億円となっているところであります。
<b>2-(再) 3</b> 工事が継続している美唄富良野線ですね、それと名寄遠別線について、道に委譲されるまでの間、どのくらい工事費がかかっているのか把握されているか。また、その情報については、評価委員会に提供されているのかについて、お伺いいたします。			道に委譲する前の工事費についてのご質問でございますが、北海道開発局からは、事業の予算・決算についての資料については、保存期間が5年となっており、開発局における開発道路は平成21年度に事業が終了し5年以上が経過していることから、資料が残っていないため、総事業費については不明、との回答があつたところであります。 また、公共事業評価専門委員会には、ご報告を申し上げていないところであります。
<b>(四) 今後の事業費について</b>		道路整備についてであります、道では、公共事業の効果的・効率的な実施と実施過程の透明性の一層の向上を図ることを目的とした、公共事業再評価を実施をしてきているところであります。これらの道路についても、節目節目で、その必要性や妥当性を検証しながら事業を進めてきたところであります。現在も、その必要性は変わっておりませんことから、今後とも早期完成に向け、コスト縮減にも十分配慮しつつ、適時、適切に必要な対応をしながら、着実に推進をしてまいりたいと考えております。	

質問	要旨	答弁	要旨
<p><b>2 開発道路事業の再検討について</b></p> <p>結局増額はないという明確な答えではないと思いま す。116億円以上投じた道道富良野上川線は、1ヶ月だけ 使われて通行止め、工事中の2路線については、既に 131億円の事業費の増額です。さらには今後の事業の増 額についても見通せない、そういうことで納税者への説 明責任を果たしていると知事はお考えでしょうか。お伺 いいたします。</p> <p>私は、知事に今一度立ち止まってこの2路線の事業の継続 をするのか否か再検討をすべきではないかとお伺いしたかつ たのですが、今ご答弁いただいたそうした答弁では、引き続 き事業を進めていくという考え方のようです。</p> <p>しかし先ほど知事にお答えいただきましたように、この必 要性ですね、工事費を見直すことによって、富良野上川線は 道の145億円これが使う必要がなくなった、こういうふうに 工事費は大きく節減できるわけです。開発道路の抱える問題 が象徴的に出ているこの2路線の事例です。厳しい道財政か ら巨額の税金を投入し続けることを道民の理解を得ることは 出来ません。強く見直しを求めます。</p> <p>知事の決断を求めて私の質問を終わります。</p>		<p>今後の道路整備についてであります、美唄富良野線は、南空知地域と上川南部地域の短絡ルートの形成により、観光アクセスの向上や物流効率化の支援、道路網の多重化による地域の安全性の向上などを図る路線となっ ているところであります、名寄遠別線は、留萌北部と上川北部の両地域における高次医療機関へのアクセス向上や物流の効率化、災害による孤立化の解消などを果たす路線とな っているところでございます。</p> <p>こうした地域の重要な役割を担うこの2つの路線につ いては、地元からの強いご要望もあり、道としては、引 き続き、早期の完成に向けて事業を進めていく考えであ ります。</p>	